

「想定」は主の御手にある

ヤコブ4：13～17



2025年はどんな毎日だっただろうか・・・

主が与えてくださった時間をどのように使うのか。使ったのか。
自分が何を優先していたかが反映されている。

私たちの生活は「想定」の中に在る

大前提にあるのは、明日も生きている。今日と同じ明日であるという想定。

明日は分からない。それは主の御手の中に在る

聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と
言う人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。あなたがたのいのちは、いったい
どのようなものですか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それから消えてしまう霧にすぎません。

【13、14節】

主の御心を求めて祈る。これが確かなこと。

人の歩み複雑で、不確実。

自分の生き方や人生の決定まで自分でできると自己過信しているならば、
そこに誤りがある。

人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。

箴言 16 : 9

神に依り頼んで計画を立てられることが、クリスチャンに与えられている特権。

自分の命綱を誰に預けるのか？

* ある婦人の証し

あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出そう。

伝道者の書 12 : 1

自分にとってのパンとは何か？

『投げる』・・・心を込めて送り出すこと

* 17世紀プロテスタント牧師の話